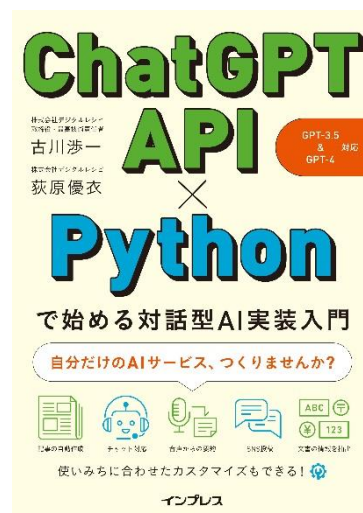


各 位

2023年10月24日
株式会社インプレス

実務で使える AI サービスを開発できる！『ChatGPT API×Python で始める対話型 AI 実装入門（GPT-3.5&GPT-4 対応）』を 2023 年 10 月 24 日（火）に発売
もれなく電子書籍版がもらえる早期購入キャンペーンも開始！

インプレスグループで IT 関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高橋隆志）は、ChatGPT を用いた AI サービスの開発方法を解説した書籍『ChatGPT API×Python で始める対話型 AI 実装入門（GPT-3.5&GPT-4 対応）』を 2023 年 10 月 24 日（火）に発売いたします。さらに、本書の発刊を記念して、本書の電子書籍版がもらえる早期購入キャンペーンを期間限定で実施します。



■ChatGPT をアプリケーションに組み込む方法がわかる

2023 年 3 月に ChatGPT API が公開され、ChatGPT を各種アプリケーションに組み込んだサービス開発が可能になりました。ChatGPT API を活用することで、既存のプログラムと連携したり、ChatGPT が生成する内容をコントロールしたりと、ブラウザ版の ChatGPT 単体では実現できないサービスを実装できます。本書では、AI 開発と親和性が高い言語である Python を使用して、ChatGPT API をサービス開発に活かすノウハウを 1 冊にまとめています。

■実用的な AI アプリケーションをスムーズに開発できる

本書では、開発の経験がなくても取り組めるように、開発環境の構築、API の基礎知識、Python の基本的なコーディングなど、実際の画面を示して丁寧に解説しています。業務に活かせる AI アプリケーションの開発手法も、コードを全文掲載してきめ細かく解説しているため、実践的なサービス開発にすぐ役立てられます。AI への指示や、コードを変更して、アプリケーションの機能をアレンジする方法も解説しているため、自分のニーズに合わせた AI 開発ができるようになります。

<本書で開発する AI アプリケーションの例>

- ・短文を生成して、SNS に投稿するボット
- ・学習させた独自のデータに基づいて回答を行うチャットボット
- ・会話の音声文字起こしして要約するプログラム
- ・Google 検索で得た最新情報を含めた記事を作成するプログラム
- ・PDF からデータを抽出してグラフ化するプログラム

■本書は以下のような方におすすめです

- ・ ChatGPT をより深く活用したい人
- ・ Python を使ってサービスを開発したい人
- ・ ChatGPT API を利用して開発を行いたい人
- ・ AI を利用してビジネスを効率化したい人

■早期購入キャンペーンを実施

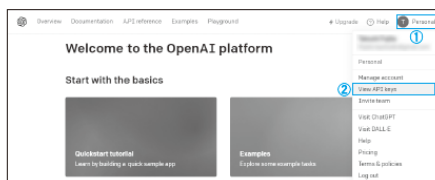
本書の発売にあたり、2023年10月24日（火）から2023年11月24日（金）までに本書を全国の書店（ネット書店を含む）で購入いただいたうえで、下記のキャンペーン特設ページでお申し込みいただいた方全員に、本書の電子書籍（PDF）ファイルをプレゼントいたします。パソコンやスマートフォンに保存して閲覧が可能なので、持ち運びや紙の書籍とあわせて活用したい場合にも便利です。

<キャンペーン特設ページ>

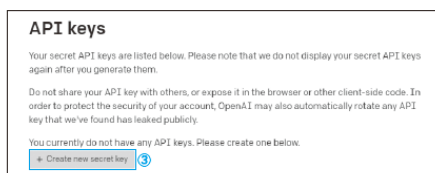
https://book.impress.co.jp/readers_entry/9784295017851yoyaku.html

キャンペーン対象期間：2023年11月24日（金）の購入分まで

■紙面イメージ



[Create new secret key] ③をクリックします。



次に、APIキーの名前を入力④しましょう。APIキーの名前は、用途を示すわかりやすい名前にすることをおすすめします。たとえば、複数のプロジェクトで別々のAPIキーを使う場合、APIキーの名前をそれぞれのプロジェクトに関連付けることで、どのAPIキーがどのプロジェクトに使われているのかを簡単に把握できます。



[Create secret key] をクリック⑤すると、APIキーが発行され、画面に表示されます。このAPIキーは一度しか表示されず、セキュリティ上の観点から再確認できません。そのため、必ずコピーアイコンをクリックしてコピー⑥し、自分のメモにペーストするなどして適切に保管しましょう。



APIキーの使用には無料枠が存在しますが、これを超えてAPIキーを使用するためには、クレジットカードの登録が必要です。以下の支払い設定用のページから [Set up paid account] をクリックして、登録を行ってください。

» [OpenAI API Billing overview](https://platform.openai.com/account/billing/overview)
<https://platform.openai.com/account/billing/overview>

1-4 | APIキーの取り扱いに注意

ChatGPTのAPIキーが漏洩すると、そのAPIキーを入手した人は、あなたのアカウントとしてChatGPT APIを使用できるようになります。APIキーが悪意のある他人の手に渡ってしまった場合、あなたの知らない間にAPIが使用され、あなたのクレジットカードに利用料金が請求されます。ChatGPT APIは従量課金制のため、高額な請求が発生する可能性があります。また、APIキーを使用して、不適切または違法なコンテンツを生成されるかもしれません。その場合は、OpenAIのサービス利用規約に違反しているとみなされ、あなたのアカウントが停止される可能性があります。

Whisperの翻訳機能を使い、英語に翻訳しつつ文字起こしをしてみよう

Whisperには文字起こしと同時に英語に翻訳する機能が用意されています。このセクションではWhisperでの文字起こしと翻訳に加え、ChatGPTによる要約まで行ってみましょう。

このセクションのポイント

- ◎ Whisperで日本語を英語に翻訳して文字起こしをする
- ◎ 英語に翻訳することでトークン数を減らし、一度に処理できる文章量が増やせる
- ◎ トークン数を減らすことで料金が節約できる

5-1 | Whisperの翻訳機能とはなにか確認しよう

Whisperには、文字起こしの機能だけでなく、日本語を含むさまざまな言語を英語に翻訳する機能もあります。

これまでのコードでは、Whisperを使って日本語の音声から日本語に文字起こしをしていましたが、このセクションではWhisperの翻訳機能を使って日本語の音声から英語のテキストに文字起こしをしてみましょう。英語に翻訳することで、ChatGPTで要約する後続の処理で使用するトークン数を減らせるというメリットがあります。

ChatGPTは、受け取ったテキストをトークン化して処理を行います。英語は日本語に比べて使用するトークン数が少ない傾向があります。ChatGPTは扱えるトークン数に制限があるため、トークン数を節約することで、一度に処理できる文章量を増やせます。さらに、ChatGPTは使用したトークン数に応じて課金が行われるので、利用料金の節約にもつながります。

5-2 | 日本語の音声から翻訳し、英語の文字起こしを行う

162ページのコード4-1-1を修正して、日本語の音声から翻訳を行いつつ英語で文字起こしを行ってみましょう。コード4-1-1のmain.pyをコピーして「translate.py」というファイルを作成し、以下のように編集して保存してください。

コード5-2-1 | translate.py (文字起こしのみ)

```
1 import openai
2 import os
3 openai.api_key = os.environ["OPENAI_API_KEY"]
4
5 file = open("sample.wav", "rb")
6
7 transcript = openai.Audio.translate(
8     model="whisper-1",
9     file=file,
10 )
11
12 print(transcript.text)
```

変更点は7行目のみです。以前のコード4-1-1ではopenai.Audio.transcribeとなっていたのですが、今回のコードではopenai.Audio.translateと変更されています。

コード4-1-1 | main.py (再掲)

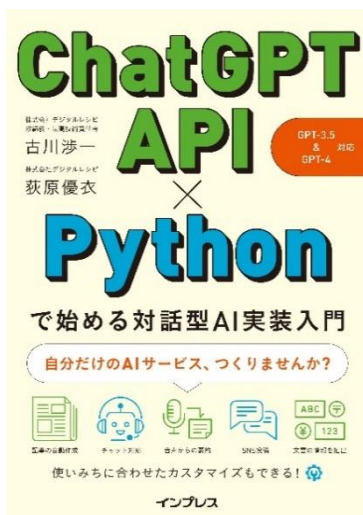
```
1 import openai
2 import os
3 openai.api_key = os.environ["OPENAI_API_KEY"]
4
5 file = open("sample.wav", "rb")
```

Python コードは全文掲載してくわしく解説。コードは特典としてダウンロード可能

■本書の構成

- CHAPTER1 ChatGPT の基本を学ぼう
- CHAPTER2 開発環境や API の準備をしよう
- CHAPTER3 短文の作成と SNS 投稿を自動化しよう
- CHAPTER4 独自のデータを学んだチャットボットを作ろう
- CHAPTER5 音声データを文字起こしして要約しよう
- CHAPTER6 最新情報を含めたニュース記事を作ろう
- CHAPTER7 PDF からデータを抽出してグラフ化しよう
- CHAPTER8 運用上のトラブルを防止しよう
- CHAPTER9 プロンプトインジェクション対策をしよう

■書誌情報



書名：ChatGPT API×Python で始める対話型 AI 実装入門（GPT-3.5&GPT-4 対応）

著者：古川渉一、荻原優衣

発売日：2023年10月24日（火）

ページ数：256 ページ

サイズ：A5 判

定価：2,750 円（本体 2,500 円＋税 10%）

電子版価格：2,750 円（本体 2,500 円＋税 10%）※インプレス直販価格

ISBN：978-4-295-01785-1

◇Amazon の書籍情報ページ：<https://www.amazon.co.jp/dp/429501785X>

◇インプレスの書籍情報ページ：

<https://book.impres.co.jp/books/1123101013>

◇書影ダウンロード：<https://dekiru.net/press/501785>

■著者プロフィール

古川 渉一（ふるかわ・しょういち）

1992年鹿児島県生まれ。東京大学工学部卒業。株式会社デジタルレシピ取締役・最高技術責任者。大学生向けイベント紹介サービス「facevent」を立ち上げ、延べ30万人の大学生に利用される。その後、国内No.1 Twitter管理ツール「SocialDog」など複数のスタートアップを経て2021年3月より現職。パワーポイントからWebサイトを作る「Slideflow」やAIライティング「Catchy(キャッチー)」を立ち上げ。著書「先読み！IT×ビジネス講座 ChatGPT 対話型 AI が生み出す未来」（インプレス）は8万部を突破。他監修多数。AI関連の寄稿やメディア出演は100を超える。

荻原 優衣（おぎわら・ゆい）

1994年生まれ。中央大学法学部で司法を学ぶも、幼少期からのプログラミングへの興味が高まり、Webエンジニアとしてキャリアをスタート。複数の企業での開発経験を経て、2022年に株式会社デジタルレシピに入社し、GPTを活用したAIライティングアシスタントサービス「Catchy」の立ち上げを行う。

以上

【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計7,500万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch シリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」をはじめとする企業向けIT関連メディアなどを総合的に展開・運営する事業会社です。IT関連出版メディア事業、およびデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

E-mail: pr-info@impress.co.jp URL: <https://www.impress.co.jp/>

※弊社はテレワーク推奨中のため電話でのお問い合わせを停止しております。メールまたはWebサイトからお問い合わせください。